



優しく何度も教えてくれる先生



今回の作品「帽子と蓋付き小箱」

折紙を通して「地域社会」に貢献するボランティア活動

2018年に子ども関係のイベントや高齢者施設、保育現場などでおりがみボランティアの需要が増えたことにより、狛江市市民活動支援センターがおりがみボランティアを普及させる目的で活動を開始。2019年からは折り紙技術の向上と参加者の増加を目指し、定期的に折り紙の講師を招く形で開催。その後コロナ禍による活動の中断もありましたが、2022年に定期活動を再開。2023年には高齢者施設2か所、以降毎月3回定期的に訪問し、折り紙による交流を続け、依頼があれば地域のイベントや学校への訪問なども行っています。

8月6日、こまえ正吉苑二番館で開催された活動に参加してきました。

会場には丸テーブルが5台、それぞれの丸テーブルに3～4人、折り紙を教わりたい方、折り紙を通じて交流を図りたい方、折り紙を活かしてボランティア活動を始めたい方、年齢・性別問わず様々な方が参加されていました。毎月15～20名の方が参加されているとのことでした。

今回の作品は、誰かにプレゼントしたくなるような「帽子と蓋付き小箱」です。

講師の山沢一枝先生が、前で大きめの折り紙を使ってわかりやすく教えてくれます。少しずつ折り方を進めてくれ、各テーブルを回ってくれるので安心してついていけます。黙々と取り組んでいる方、同じテーブルの人に教えてもらいなが



折りながら自然と距離が縮まりました



講師の山沢一枝先生

ら進めている方、おしゃべりをしながら皆さん楽しそうです。「私不器用だから…」とか「今回はちょっと難しいかも…」などの声も聞こえてきましたが、中には「ちょっと難しいけど、手先と頭をフル活用して新しい作品を覚えるのがとても楽しい」とか「ボランティアも細々ながら続けていきたい」「習った

たらいくつか作ってお友達に差し上げたり、一緒に作ったりしています。」という声も。おしゃべりをしながらも皆さん最後には素敵な作品が出来上がっていました。出来上がった作品はそれぞれに愛嬌があり、作った方の温かみを感じます。

山沢先生はおりがみの楽しさを体験して、他の人へ伝えるボランティアの楽しみにつながればと、毎月季節に合った折り紙を考えてくださっています。お部屋に飾ったり、誰かにプレゼントしたくなるようなわくわくする作品ばかりです。

1時間半という時間があっという間と感じるくらい折ることに集中し、皆さんと楽しい時間を過ごすことができました。優しい気持ちにさせてもらえた一日でした。

(取材記事：こまえくぼ広報部会 白岩)

編集後記

早速帰り道、花柄模様の可愛い折り紙を買って帰りました。教えていただいた帽子をいくつも折って、部屋に飾って大満足です。自分にもできるボランティアを見つけた気がします。

● おりがみボラ

■ 開催日：毎月第1水曜日
(今後の活動：1月7日、2月4日、3月4日)

■ 時間：14:00～15:30

■ 場所：こまえ正吉苑 二番館
(※令和8年度4月より市民活動支援センターに変更)

■ 持ち物：マスク必須

■ 参加費：無料

■ 申込み：必要ありません

■ 問い合わせ先：狛江市市民活動支援センター



狛江市市民活動
支援センターHP